

2018 年度後期「学生による授業評価」に関する検討会

報告書

学科科目

目次

国際英語学科	国際英語専攻	p.1
人文学科	哲学専攻	p.6
	日本文学専攻	p.7
	英語文学文化専攻	p.8
	歴史文化専攻	p.15
国際社会学科	国際関係専攻	p.16
	経済学専攻	p.17
	社会学専攻	p.18
	コミュニティ構想	p.19
心理・コミュニケーション学科	心理学専攻	p.20
	コミュニケーション専攻	p.22
人間科学科	言語科学専攻	p.23
数理科学科	数学専攻	p.24
	情報理学専攻	p.25
女性学研究所（女性学・ジェンダー科目）		p.27

2020 年 3 月

東京女子大学 FD 委員会

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年3月27日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等
学科・専攻主任、所長、委員長等
検討会実施日
出席者数

国際英語学科国際英語専攻
本合 陽
2019年3月13日～3月20日
10名（内、非常勤講師 1名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

- 学生の質問

- 授業時間をオーバーすることが多いと思う。
- 授業の開始と終了の時間を守ってほしい。
- 授業内容に関してどういう目的・目標があって内容を決めているのかが分からなかったの

で、それを明確にして欲しかった。

- 上記の質問へのフィードバック

- 慣れない授業で後半になればなるほど授業時間のコントロールが難しくなっていました。

4 skills の授業や reading の授業や文学の授業を英語で行なった経験はありましたが、ここまで多様な教材を多様な方法（発表や discussion など）で1年次に教える経験ははじめてでした。次週に向けての課題に関する重要な説明が時間切れで出来なくなり、口頭（英語）での課題の指示が伝わらないこともあったので結果的にプリントを用意し、それでも足りないと思われたので、後でメールで説明しなおすこともありました。そういった不手際が混乱を招いたことは否めません。

- 「目的・目標と内容の関連を理解していない」というのはこの授業全般でほかの教員からも聞かれたことではありました。これについては今後授業できちんと説明したいと考えています。

- 自分の人生のなかで最も評価が低かった授業であるため、大いに反省し、今後改善を試みたいのです。

- 学生の評価に対する教員のフィードバック

- 自由記述はすべて良い点に関してでした。授業内容に関するものと、教員の態度に関するものと両方見られました。後者については、「質問の機会があったのが良かった」「分からないところを質問に行くと、とても丁寧に答えていただいたので助かった」というものがありましたので、今後も続けたいと思います。

- 学生の意見に対する教員のフィードバック

- 授業で回収したコメントシートの内容（質問）については、次回の授業で回答するように心がけています。

- 提出されたレポートの中から学生全員で共有した方がよい情報や内容についてまとめて授業で紹介しています。

- 学生のコメント

- 改善を要するコメントとして以下のようなものがありました。

- レポートの提出が次の週というのが多かったため、もう少し前に提出日を指示してほしい。プレゼンテーションについても同じ。準備期間をもう少し設ければより良い内容にできる。

- 扱う題材が多すぎて終わらないので減らした方がよいと思う。その時間をグループディス

カッションなどに使えると良い。

- 授業で扱うプリントのタスクをどのように進めていけば良いのか分かりにくかった。
- 各項目で何のためにこのトピックを扱っているのかを説明してほしい。

- 学生の意見に対する教員のフィードバック

- 初めての授業であったため、シラバス通りに行かないこともあった。今後は今年度の経験を活かせるため、レポート提出やプレゼンテーションの時期を、初回に確認できればと思っている。

- 題材についてはすべてをやる必要はないので、どこを扱うかを各ユニットの始めに明示できるようにしたい。

- 説明を要領よくできるようにしたい。

- 共通教材なので、教員間で話し合いをし、わかりやすい説明を考えたい。

- その他の意見に関するフィードバック

- 「グループで分からないところなど、教員が回ってきて丁寧に教えてくれて分かりやすかった」、「英語でのエッセイの書き方、参考文献の書き方の詳しい説明があり役立った」、「授業の展開予定の説明が毎週あり予習がしやすかった」、「グループワークが多くて良かった」、「幅広い内容で良かった」など、授業内容や授業運営を評価してくれる意見も多くありました。その点はうまく残せるよう、今後も考えたいと思います。

- 学生のコメント

- テストだけでなく演習問題も扱って欲しかったです。

- この授業で、今まで勉強してきた文法が、実はもっと深いものだったことを知ることができました。グループで発表をするという形もプレゼンの練習になってとても良かったです。

- 上記の意見へのフィードバック

- 限られた時間数で英文法のエッセンスを学ぶため、演習問題まで扱う余裕がありませんでした。すべては無理としても、とくに大切な事項に関わる演習問題だけでも授業内で扱えないか、検討いたします。

- 「文法」=覚えることばかりでつまらない... そういうイメージが払拭できたとしたら、本当に良かったと思います。

- Students' comments

- I was glad to do the IELTS practice and found that the pair work was beneficial.

- Teachers' feedbacks

- It would have been better to be able to speak in a louder voice. I had students spread out in the classroom so they were not too close to each other, but still there was background voices. Therefore, I think what I can do is to have students do recordings in batches so not everyone is speaking at the same time.

- A Teacher's Summary of Students' comments

- Writing: Teacher feedback on writing practice was very useful. Also, the model answers provided in the books were beneficial.

- Speaking: The same as Matthew stated: It's important to do a lot of speaking practice in class. The students liked listening to their partners' recordings of speaking tasks and giving feedback. They wanted more speaking test practice.

- Reading: The students also said this was the easiest thing to practice outside of

class. Rather than doing reading in class, they want to be taught reading skills and strategies.

- Listening: The students want access to more free listening practice materials with comprehension questions. However, when I provided access to such materials, many students did not use them.

- Vocabulary: The book does not have enough target vocabulary. They liked when I gave them word lists and set for homework.

- General: Same as Matthew: We should start preparing for the IELTS from the beginning of the year. The textbook's activities were much easier than the real test. Also, some students said they were confused between academic writing and IELTS writing.

- The Teacher ' s feedback

- a. I agree with all of my students' comments.

- b. It is difficult to give enough writing feedback as the class size is so large. I spent many many hours checking essays and giving feedback. I would like to do more, but it is just not feasible.

- c. If we could somehow arrange to give the students practice speaking tests, it would be good, but I am not sure how possible this is.

- d. I will set more listening homework and get students to keep a ' listening log ' . I am also going to do more dictogloss activities to give students more chance to write down words they hear in texts.

- The Teacher ' s comment

- Overall the students seemed happy with the class and appreciative of the effort I put it, so I am happy. I have some plans of how to improve my course.

- A Teacher ' s Summary of Students ' comments

- This is basically what my FYES students said about the course:

- Doing writing activities were helpful because of teacher feedback.

- It's important to do a lot of speaking practice in class (reading we can practice at home).

- Teamwork helped me realize what I knew and what I didn't know. / I learned a lot from others when doing teamwork.

- We should start preparing for the IELTS from the beginning of the year.

- The textbook's activities were much easier than the real test.

- The Teacher ' s feedback

- I agree with all of my students' comments. However, it is interesting that half of my students said they thought they did poorly on the speaking part of the IELTS when actually most of them did quite well. I imagine this has to do more with a lack of confidence.

- A Teacher ' s Feedback to Student ' s Comments

- The feedback scores were very positive. All the written comments were also positive. These are all the comments I received (translated from Japanese): ' I was fully prepared for the IELTS and thanks to this got a good score ' ; ' Reviewing and discussing problems from previous lessons was really good ' ; ' I felt the lessons were well structured so we could enjoy learning ' ; ' The teacher adapted to the level of each student and feedback on homework tasks was always

given and helpful’ ; ‘ I felt it was good that the teacher put in a lot of effort in preparing lessons ’ .

- As the student feedback was positive and their IELTS scores were relatively strong, I would like to focus in particular on improving the areas of their IELTS test scores that were weakest of the four skills: listening and speaking.

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

- 国際英語専攻の授業は今年度からスタートしたものが多く、特に共通科目は試行錯誤の面もありますが、いただいた意見を参考に、分かりやすくかつ力が伸びるような授業計画と運営の工夫を続けていきたいと考えたいと思います。

- 以下のような具体的な方法が示されました。

- グループ活動の活用

- グループ発表に対するリアクション—他のグループが「良かった点」、「質問」、「わかりにくかった点」についてコメントを書き、発表グループに還元

- 授業で扱うトピックについての情報（新聞記事、本、インターネット情報など）を常時紹介

- 英語で重要な指示を出す際は、かならずプリントを見せながら解説

- 視覚と聴覚を同時に刺激する情報提示

- 学生の理解を促進するワークシートなどの作成

- スクリーンに学生の準備したものを映し情報共有を促進

- プリゼンテーションに用いる題材選択を学生に

- 以下のような改善方法に関する意見がありました。

- 設問6, 8の値が平均に比べて低めであったことから、授業で用いた教材の難易度が高かったことがうかがえます。一方自由記述では、「今までの英語の授業と違う視点で英語を学ぶことができたのでとても良かった」という意見もあるので、教材を変えず、1章1章により時間をかけるなどの工夫をしてみたいと思います。

- Study Abroad 基礎演習は、初めての授業で、しかも英語で通す形態のため、ちゃんと理解されているか懸念がありましたが、設問3の「シラバスに基づいて展開されていたか」を除けば、いずれも平均値をかなり上回る評価を得ることができました。共通のプリントやビデオのほかに、自分なりに教材を追加したりしましたが、興味を持って受講してもらえたようでよかったです。今後も、シラバスに即しつつ、学生さんの理解度も確認しながら、進めて行きたいと思います。

- Other improvements in the class is to do more speaking activities since that is where students had difficulties on the real IELTS, introduce academic writing, but also make sure that students practice IELTS-style writing, and moving the reading sections to homework to give more class time for speaking and writing activities.

- I am going to combine IELTS writing with academic writing at the beginning I think. The first draft can be an IELTS style/level essay. Then I will develop it into a longer, more academic essay in further drafts. I hope this will provide more of a balance and be less confusing. I will do more listening practice in class, and more speaking activities. Most reading practice will be done outside of class. I also think it would be very beneficial for all the students to take a pre-course mock IELTS test (at least the reading, listening and writing sections).

- To improve their listening and speaking, I am looking into the feasibility of making it obligatory for students to attend the Career English Island lessons for conversation practice

(i.e, it forms part of their 'class performance' assessment). I will need to check if that is compatible with all students' schedules. In the second semester, I did practice speaking tests with students in pairs in my office in two rounds. Based on informal feedback I received from students, they found these very useful, so I will start doing these earlier.

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年3月20日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等
学科・専攻主任、所長、委員長等
検討会実施日
出席者数

人文学科哲学専攻
黒崎 政男
2019年3月19日
4名(内、非常勤講師 0名)

1. 学生へのフィードバック(学生の要望に対する具体的な回答) [学生・WEB開示](#)

1)「現代の最先端のテクノロジーや科学を取り入れた哲学の授業は面白いが、使用教材やテレビ番組のデータが古くなっていることがあります。つねに最新のデータを元に哲学的議論を展開してほしいです。」という要望がありました。物事の本質をじっくり深く考察する哲学的思考と、日々状況が変化する最先端テクノロジーとは時間的スパンに関してずれがあることも事実です。可能な限り、最先端テクノロジーが今日どうなっているか、を考慮しながら、議論を展開しようと思います。

2)「チャイムがなっても演習が続いていることがあります。時間通りに終了してもらいたいです」という要望がありました。受講者全員に発言を求めており、有益な質疑応答が続くことがあり、途中で断ち切ることが難しいのですが、今後はあてる人数などを調整しながら、可能な限りチャイムがなったら終了するように努力します。

3)「教員は、もう少し受講者の理解の程度を点検・配慮してほしい」という要望がありました。今後は極力質問の機会をもうけたり、小テストを多く取り入れるなどして、この要望に答えたいと思います。

4)「哲学の難しい問題についても楽しく講義が進んでいて、とても理解ができました。いまでは、レポートなどを書くとき、いつも結論は哲学的な考えになってしまい、自分の脳が哲学専攻に在籍しているらしくなってきました。もっともっと噛み砕いたり、雑談を交えながら講義を進めてもらいたいと思います」という要望がありました。難解な問題を、さまざまな方面からさまざまな手段で論じ、さらに哲学的に考えることができるように努めたいと思います。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB開示](#)

今回も、授業評価アンケートの集計結果をみると、設問1(出席の程度)についてみると、「すべて出席した」「1~2度欠席した」を合わせると、約9割に至っており、出席に関してはまず良好な結果となりました。設問3・4のシラバス関係も「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合わせると9割に達しており、シラバスに基づく授業の展開、およびシラバスの有効性が示されたかたちとなりました。

設問13「総合的満足度」も「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合わせて9割を超えており、哲学専攻の学生たちの満足度がきわめて高いことがわかります。

問題点としては、やはり 設問2「教室外学習の時間」であるが、「全くしていない」が3分の1をこえ、「週一時間以上」でも二割程度にすぎません。この件は積年の課題です。

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年5月17日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等
学科・専攻主任、所長、委員長等
検討会実施日
出席者数

人文学科日本文学専攻
今井久代
2019年4月10・24日、5月8日
7名（内、非常勤講師 0名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

ディベート方式を取り入れた人文学基礎演習については、必ずしも「戦う」形をとらずに、活発なグループディスカッションを促すような授業にしていきます。

授業内で歌舞伎のDVDを見せて講義する授業について、授業内で見ると授業外で見ることとし、教員の講義をもっと聴きたかったという意見がありました。図書館には歌舞伎のDVDは揃っていますし、YouTube等で見られるものもあります。こうしたコンテンツについて教室外学習としてできるだけ紹介していきませんが、著作権の関係もあり、webclass等で共有するなど、全員が必ず見られる環境を整えることはできません。このため全員が見たのを前提として授業を行うのは難しいところもありますが、授業外学習で担えるところはそのようにしてゆきたいと考えています。

全体として、教員からのフィードバックのみならず、授業内で他人の意見を聞くことで勉強になったという感想に接することが多いので、今後も演習内では発言を促したり、グループ内での意見交換の時間をもって発言してもらうようにしたり、大講義ではいくつかコメントを紹介してゆくという形を、でき得る範囲で取ってゆきたいと考えています。また、このほか新しい情報機器を使って、授業内にフレキシブルに対応することも検討しています。

試験やレポートの課題について、具体的な指示を、ある程度の余裕をもった時点で聞きたいという意見もありました。試験かレポートかなどについては既にシラバスに詳しく書いてあり、加えては授業の初回で説明するのが通例で、それに留めることも多いのですが、もっともな要望とも思われるので、心がけてゆきます。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

授業によっては、Webクラスを利用してゆくことを心がけます。授業プリントを学生自身も管理できるので、欠席したり紛失しても入手しやすくなります。また授業の前にプリントを入手できるので予習しやすくなり、予習を前提とした授業を行うこともできます。レポートの提出をこれで行う場合、学生の方も提出が楽になります。

演習においては、可能な限りアクティブラーニングを取り入れてゆきますが、活発なディスカッションのためには、まず相互の信頼関係が重要です。異論も反論もディスカッションの一環としての行為であって当人への批判ではないことを、大前提として共有できるよう、意識化を図ります。具体的には、高大接続の側面の強い人文学基礎演習を中心に、議論しやすい意識化をはかってゆきます。

大教室での大人数の講義では、私語や遅刻が目立つのが問題ですが、授業の最初の回など早い段階で、「出席を取り、遅刻厳禁であること」「教員の声が聞き取りにくい声質なので、私語をすると聞こえなくなるから私語厳禁であること」等、具体的にきちんと注意すると、相当に効果があるとのことなので、言わなくともわかるというのではなく、きちんと指示することとします。

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年4月5日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等

人文学科英語文学文化専攻

学科・**専攻主任**、所長、委員長等

野村恵造

検討会実施日

2019年3月13日～2019年3月25日

出席者数

17名（内、非常勤講師 7名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB開示](#)

学生への直接的なフィードバックだけではなく、先生方が行っておられる工夫も含めて、寄せられた情報をそのまま掲載しました。ただし、一部、文言を調整し、また、学生のコメントとそれに対する教員の回答が明確に分かれている場合は、「『学生のコメント』 教員の回答」としました。

「Thank you very much. I can enjoy writing essay in this year. It was kind for me that you teach us one by one.」

Thank you for your comment. I try to make the class useful and also enjoyable. The class is a bit large, but I try to help each student individually with their writing problems.

「Thank you for teaching us JC. I could prepare for Graduation Essay. It was easy to understand your lecture because you told us with easy English and slowly.」

Thank you for the comment. One of my main goals is to prepare students to write successful Graduation Essays during their fourth year at TWCU. Because of this, I rely on the "Guidelines for Writing a Graduation Essay" for details on how to write a good academic essay. I try to speak clearly and at a speed so everyone can understand.

I think this class went well. The students are quite motivated because they know it is very important for them. This year I tried to do more writing workshop activities than in the past.

「Thank you!! I learned many things from the class. It's fun.」

Thank you for the comment. I try to make every class informative and enjoyable. It's not always easy, but I think students are more motivated to learn if the information is presented in an enjoyable way.

「I did not know how to compare the works before I took this class, but I found it fun to know the similarities of Edgar Allan Poe and Charlotte Perkins Gilman, etc.」

Thank you for the comment. I think it's important to compare the different works we read and to make connections between them.

「It was amazing class.」

Thank you for the comment. It's the first time a student has said the class was amazing. One thing that makes the class good is that we have excellent content to work with.

This class has many readings. I keep trying to improve the handouts to make the readings more interesting.

「I could understand better with worksheets and videos. It's always very interesting!」

Thank you for the comment. I try to make the novels more interesting by using worksheets and showing videos which can give a visual representation of the different situations.

I've taught this class for several years. This year I included a series of detailed worksheets for each novel we read. The worksheets seem to be successful in keeping the students focused on important

elements in the texts.

「Thank you.」「Thanks for your fruitful class! I could have deeper understanding of each theme. thanks to your advice & support」

It seems the class in which I set very challenging texts (Edward Said, Roland Barthes, John Berger) got the most positive response. I will take this into account for future classes. I would like to tell my students that I will keep doing my best to make classes thought-provoking, informative and enjoyable.

「This lesson is really fun for me, but only two or three people actively participate. But it's useful for us.」「I always think that your classes are meaningful so much for us.」「Texts are difficult for me but really interesting contents.」「I don't know MLA style very much.」「It is difficult to search original source because all students in this class search some book.」

This year, I taught literature students for the first time and we wrote about short stories. That is what the 'texts' above refer to. I felt that the atmosphere in the class was positive, but as one student mentioned above, only 2 or 3 students actively participated in the class. However, those few students seemed genuinely interested in literature and that made the class interesting.

「クラスが理解できていない時、日本語でも説明してくれました。とても楽しい授業でした」

Thank you for your comment. I try to make the class useful and also enjoyable.

「授業に映画が使われていて理解が深められた」「多くの学生が参加する授業でしたが、毎回のコメントシートとフィードバックがとても良い刺激になりました。とてもおもしろかったです」「今期の授業で1番面白かったです、出席者と遅刻者の区別をしっかりと欲しいです」「前回のフィードバックの時間があり、内容が理解しやすかったです」「映像を使用する授業で、わかりやすかったです」

1限の授業は、毎回遅刻者がありました。遅刻者用のリアクション・ペーパー（コメントシート）を別に用意し、遅刻者については、その回の得点を、遅刻の状況に応じて、3～5割減としました。遅刻時間と理由については自己申告させました。その内容によっては、全く減点しない場合もありました。4限の授業は、遅刻者は例外的でした。そのため、遅刻者について、とくに区別はしませんでした。

「もう少し黒板を消すのをゆっくりしてほしいです」という要望がありましたので、今後気を付けたいと思います。板書とプリントを中心に進めている授業ですが、樹形図など大きなものを板書することが多く、黒板が2壁面にある教室であったらよかったですと思いました。

「理論としてとても分かりにくいものなのに、先生の教え方がとてもわかりやすく、理解できました。時々出されるコメントペーパーにも丁寧に返答してくれるのでうれしいです」との記述はうれしいものでした。わかりやすい授業、丁寧な返答は続けていきたいと思います。

「発表の後で詳しい解説を入れてくださったのが理解を深めるのに役立ちました」の記述のみでした。発表中心の授業ですが、発表のときにはずいぶん差がありましたので、間違いを見逃さないようにとは心がけました。これからも続けます。

「難しい授業なので学生がきちんと理解しているか確認をするべきだった」との記述がありました。3～4週間に1回のペースでコメントペーパーを課しており、授業中も質問を促していたため、やるべきことはやっていたと思います。本授業は履修者の質が明らかに2分されていました、(i)授業内容に関心を抱き、積極的に質問をする過半数の履修者たちと(ii)学期の初めから欠席や遅刻が目立ち、半分以上の授業を欠席していた数名の履修者たち、です。今回の記述が後者の履修者からのものだとすると、欠席しているものに指導はできませんので、何ともしようがありません。

全体として設問6、8の値が平均より低めでした。授業内容が難しかったということなのかもしれませんが、「分かりやすかった」「面白かった」と感じる学生もいるため、やみくもに難易度を下げるのではなく、学生の反応を見ながら適宜調整していきたいと思います。そのためにも、引き続きコメントペ

ーパーを活用する予定です。

全体として値が高く、学生の満足度が高い授業であったことはよいことと思います。設問3の値が低めなのは、進行が予定（シラバス）よりも遅れ、最後の2章ほどカバーできなかったからでしょうか。授業の質を維持するためには今年度の進度が適切であったと思うので、今後は今年度に合わせてシラバスを変更しようかと思っています。

自由記述にあった「難しい」に関わらず、設問のそれぞれの項目の値は総じて高いものでした。本科目は教員の専門と真ん中であることから、教員もつい教えようと思っていた以上のことも盛り込んでしまいましたが、それを興味深いと感じる学生が少なからずいたようで、ありがたく、頼もしかったです。受講登録者数は20名と講義にしては少ないほうでしたが、その分実践的な内容（練習問題を解くなど）を盛り込めたり、熱心な受講者が多かったりと、楽しい授業でした。

「課題が多く、学生に求められるレベルが高すぎる気がする。また、1週間で1500wordsの課題はおかしい。課題のために無理をして体調を崩す人もいた」「毎週課題を出されたので、自主学習の時間を作る癖ができたと感じています。発表やレポートも多く、次学年につながる学習ができたと思っています」

これら2つの学生の相反するコメントはこの授業の課題の多さへ2つの側面を示しています。前年度と異なり、今年は発表者以外の学生もそのテキスト（日本語の翻訳は入手可能。多分全員翻訳を用いていたと思います）のdiscussion pointsを事前にメールで提出させ、それを授業ではまとめて実名つきで（よいコメントにはをつけて）プリントにして配っていました（ほとんどの学生が提出していました）。多少講評をすることもありました。これによって発表者以外の学生も作品を常に意識的に読むようになり、それが最終的に2つ目のレポートの質向上につながると私は捉えていました。リアクション・ペーパーも去年から引き続き使用し、集めて切り貼りしたものを次週にプリントして渡していました。実際のレポートの数や締切のタイミング自体は例年と全く同じです。このような授業に対して実力をつけた学生と、大きな負担を感じた学生と2つに分かれたようです。あるいはdiscussion pointsを提出するたびに質が向上する学生に対して質が向上しない学生さんは焦りもあったかもしれません。ただ、2つ目のコメントにある「1週間で1500 wordsのレポートは無理」は的を射たものです。というのはこのレポートの出来（ほかのレポートと比べても）が一部の学生を除いてあまりよくなかったからです。近年の学生の学力の低下も視野に入れて、この負担感を減らすことがこの授業の今後の課題となるでしょう。

可もなく不可もなく「全体」とほぼ同じでした。この授業ではグループディスカッションやワークショップなどinteractiveな内容でコメントペーパーもかなりしっかりしたものを書かせていましたが、後期は普通の講義形式に近かった（内容的に前期と同じようにするには無理がありました）ので、学生は楽であった半面物足りなかったと思われます。今後は講義であっても双方向性を目指そうと思っています。

「アメリカ文化を日本と比較しながら学習できたので理解しやすかった」という感想を述べた学生がいましたが、対照性を明示することによりそれぞれの文化の特徴が明らかになるので、今後とも英語と文化を考察するにあたって、このアプローチから異文化を論じていきたいと思っています。

「一人ひとりが教科書の説明をするということは、しっかりと勉強するよいきっかけだと思いました」

教科書の内容を、グループの他のメンバーにわかりやすく説明する、という活動を通して、それまでの自分の理解が曖昧だった点に気づいたり、教科書以外の文献を利用して、更に理解を深める必要性を感じることができたのではないかと思います。また、説明することを前提に教科書を読むと、ポイントを自ら探して読む姿勢が自然と身につきます。授業中に得た多くの気づきを、今後の各自の学修に活かしてくださるように願っています。

「英文法を、英文を通して学習することの意味を知ることができた」

「英文法」を単なるルールの羅列で、受験の為の暗記科目と思い込んだまま、苦手意識を持ち続けている学生が多く見受けられます。この授業では、英文のテキストを、英語ネイティブが英語を使う際の発想を知る手がかりとして読むことを心がけました。英文のテキストには、ネイティブが語法の何を不

自然と感じ、TPO に応じてどのように使い分けるのか等を理解するための鍵が豊富に示されています。授業を通して学んだことが、英語という言葉をもっと深く理解するための手助けになれば嬉しく思います。

「英語の発音で大切なところを主にピックアップして、実際に発音練習できたところが良かった」

知らず知らずのうちに自分なりの癖がついてしまっている発音等を、LL 機材を利用して客観的に点検しながら修正していく作業は、効果をすぐに実感でき、やり甲斐もあったのではないかと思います。授業で学んだ知識を、今後の学修や卒業後の様々な実践の場で大いに活用してくださることを期待しています。

「歌を歌ったりして楽しかった」

歌音声学の基本的な知識が一通り身についた段階で、その知識を活かして実際の活動（会話に留まらず、歌や絵本の読み聞かせなど）を行ってみると、それまで気づけなかった新しい発見があるものです。発音しにくい音がある、発音がなかなか相手に通じない、というような問題点は、音声学の知識で解決できることも多いですから、授業を通して学んだことを、今後の実践的な活動の中で是非活かして欲しいと思います。

担当した授業では一年間かけて一つの作品にじっくりと取り組み、サブテキストして同作家による日記を検討することで小説家の全体像を把握することに努めました。また、長編小説を分析する際に必要な方法も具体的に提示しました。「内容が濃く面白かった」「細かい知識が身についた」と評する学生が多かったですが、「基本的には和訳で終わっていて、読解を深めることができなかった」という意見もありました。しっかりとした内容理解は確実な読みからしか生まれません。和訳中心の授業を行ったつもりはありませんが、正確な読みを促進するためにそのような一面もあったかもしれません。また、研究発表の場を有意義な体験と捉えた学生がいて頼もしく思いました。

「英語学のクラスを初めて受けましたが、英語だけでなく、日本語に対する見方も変わったように思います」「楽しくてあっという間でした」「先生の授業をもっとたくさんの方が、一人でも多く受けたら、本当の意味で国力は上がるのになあ、といつも思います」

有難うございます。「英語学」の授業ではありますが、なるべく身近な事例から説き起こすように努めており、その意味で、日本語にもしばしば言及しています。結果的に母語である日本語も意識化し、豊かな日本語の使い手になっていただければ、という願いも込めています。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

以下のような事例および効果が紹介され、専攻の教員間で共有した。今後も教員の間で有益な情報交換を行う試みを進めていきたいと考えている。

I have always found this a difficult course, in part because the student numbers are high and also the seminar is in Cultural Studies and students don't know what that means at the beginning (and sometimes at the three or four working on their individual topics). In class I moved from group to group answering questions, suggesting texts, and making suggestions.

The course this year culminated in ten-page researched essays on the individual student topics. The goal was that at the end of the seminar students would have roughly half of their graduation thesis written for the 2019 4年次特殊演習, and this seems to have worked.

One constant drawback for Junior Composition, at least in my experience, was also mentioned in the student comments above: documentation. The MLA style seems to be an ongoing concern for students. It is not uncommon to have at least one student say she doesn't understand MLA style literally 2 weeks before the end of the academic year. While it is a nightmare for everyone, perhaps a class specifically devoted to finding and documenting sources would be of benefit to the students. If that were the case, the class time in Junior Composition could be devoted to composition.

受講者のコメントとフィードバックを授業の根幹とすることによって、多人数の講義でもインタラクティブな内容とすることができました。/ この授業専用のウェブ・ページには授業で使用したスライドと配布資料のPDFファイルも随時アップしておいたので、受講者の復習に役立ちました。/ いずれの授業でも、小説等の粗筋を紹介する際には、教員が独自に編集した映画のクリップを多用しました。口頭で説明するよりも、はるかに効果的でした。

担当箇所を発表してもらった反転授業の形式を取っていました。教員に質問しやすいよう、また、教員側からは、クラス履修者の理解度が確認できるよう、授業後に宿題を提出してもらい、質問などがあれば、書いてもらうようにしました。わかりにくかったと思われる点については、次の授業で追加説明をするようにしたところ、少しずつ授業内で意見や質問が出るようになりました。今後は、学生自身が学習効果を実感できるように、さらに工夫したいと考えています。

発表形式の授業だったため、その授業で担当になっていない学生は、当初、受け身になりがちでした。主体的に学習する習慣をつけるように、必ず予習するように指示した上で、毎回宿題を課し、宿題や質問を提出してもらって、教員が赤ペンを入れました。書いたものに対して返事がくることが、学生にも励みになったようで、続けていくうちに宿題の提出率が高くなり、また、質問や意見も出やすくなりました。

このクラスの特徴として、ほとんど毎回、学生個人と教師との間で、パラグラフやエッセイ（作文ではなく thesis statement が記された小論文）のアウトラインやドラフトから最終提出まで、実際の英文を何度も revise するフィードバックを常に行っていました。提出期限の不揃いや英語力の個人差は否めないで、学生一人一人の個人的ペースにあわせるように努めました。自分の英文を書く際の文法的問題点を把握し、できるだけ自力で改善するスキルを学習することがこのクラスの目標ですので、小さくても各々の達成感を積み上げていくプロセスを意識しました。クラス全体でのコミュニケーションを通して自身の英語力を把握できる環境も重要なので、ピアーズチェックをして、クラスメートの英文の revise すべき点を指摘できるような機会をできるだけ持ちました。また、各人のエッセイから、プレゼンテーションによって、英文の表現方法を具体的に選び出し、動詞や形容詞、フレーズ等々を share して有効活用できるようにするなど、クラス全体の力で学び合うようにしました。

大学の授業評価アンケートのほかに、自由記述の無記名でのアンケートを実施しているのですが、項目は、(1)興味深いテーマ・参考になった点、(2)授業で取り上げてほしい映画・ドラマとその理由、(3)ポスターセッションの感想、(4)取り上げてほしいトピック、(5)授業に対する希望、などです。

ポスターセッションの(3)についてですが、これは、発表内容をポスターにして、発表者はポスターの横に立ち、一斉にプレゼンテーションをする発表形式です。このクラスは受講者数が多く、クラスを3グループに分け、プレゼンテーションを行ったのですが、感想としては、アンケートの回答をしたほとんどの学生が、「良い刺激になった」、「いい発表」が多く、また「自発的に学習に取り組むことができた」、また「同じようなトピックを扱った発表もそれぞれ違い興味深かった」という感想などがありました。前回のポスターセッションの感想も「良かった」という意見がほとんどだったので、引き続き、ポスターセッションを続けたいと思っています。

前回の感想で、できるだけ多くの発表を聞きたいという意見が多かったので、今回はクラスを3グループに分けたのですが、結局3グループにわけても、3グループ目の発表になったら、発表を終えた学生で、着席してしまったために発表を聞いている学生が少なかったため、これはあまりいい解決策ではなかったようです。前回の感想で、発表を聞かず、スマートフォンを見ている学生もいたのが問題だという指摘があったので、今回はスマートフォンを禁止し、この点については解決できました。

ポスターセッションが初めての学生も多いので、学期の早い段階から、過去のポスターを学生に見せているのですが、参考になっていたようです。

学生の要望で、毎回授業でディスカッションをする課題の解答がほしいという希望があったので、原則

として、解答をプリントで配っているのですが、「助かる」という感想が多かったです。

この授業では、毎週、課題があり、120分の授業時間外学習が義務付けられていますが、実際に課題をやった学生でも、週一時間以下しか学習していない学生が半数以上でした。授業の初めに課題のディスカッションをし、双方向型授業を目標にしていますが、学生の予習が足りずディスカッションにならないケースが多かったです。数年前は小テストを実施していましたが、あまり効果がありませんでした。また、回答者を指名して、問題に答えてもらう方式も取り入れていましたが、回答者がマイクで発言するまで、時間ばかりがかかり、これもあまり効果がありませんでした。他大学で、10人のクラスでは、宿題のチェックをしています。これだと100パーセントの学生が課題をやってきます。しかし、受講者が73人だとこれは無理なようです。ほかの講師の方々はどうのようにされているのでしょうか。学生発表で、ポスターセッションを実施していますが、「面白かった」「良い刺激になった」と回答した学生がほとんどでしたので、学生が自発的に学習できる発表形式だったので、今後とも続けていきたいと考えています。コメントシートの記入は、学生が授業内容を振り返り、問題意識をもって感想や疑問点をまとめ、とても効果的なので、今後も続けていきたいと思います。

2018年度、「英文法」を初めて担当させていただき、学生の理解度、毎回の授業への準備状況を把握することが難しいと感じました。リアクション・ペーパーや、ポートフォリオを用いて、毎回の授業後又は3-4回の授業ごとに回収し、コメントを書いたり、質問に答えるなどする必要を感じています。今年度は、毎回の授業終了時に練習問題から宿題を課し、次回の授業冒頭で答え合わせをすることで理解の確認をしましたが、取り組み方には個人差があったようです。学期中の8回目の授業に中間試験を行い、得点が6割を下回る学生には、期末試験の日に追試を行いました。これは、学生の学習のモチベーションを保つのに一役かっていたかもしれません。

演習の授業ではグループワークがうまく機能するケースが多いので、授業にどのような準備をして臨ませるか、授業ではどのようにファシリテーターとして議論を盛り上げるかを常に考えています。そこを教員が意識することが重要だと思います。

いずれの授業も受講者多数であったため、学生とのコミュニケーションを図ることも目的として、毎回コメントを書かせました。毎回評価を行い、その蓄積が成績評価の50%を占めることをシラバスに明記してあります。受講者のコメントについては、次回の授業の際に、必ずフィードバックを行いました。フィードバックはプリントを配布して行いました。15~30ページ以上に及ぶものでしたので、教室では4ページ分をA3表裏1枚にプリントしたものをのみを配布し、全てのページは、教員が授業ごとに設けているウェブサイト（Web Classではありません）に、PDFファイルとして掲載しました。

このフィードバックは受講者に非常に好評でした。ほとんど全ての学生がスマホ等でフィードバックを読んでいたと思われます。URLの入力が大変だというコメントがあったので、アクセスしやすいようにQRコードも提供しました。

この授業は英語で行なっていました。評価は非常に高いです。ただ、同じ英語で行なっていた前期の文学の演習は、もしアンケートをとっていたら評価が低かったでしょう。両方とも「英語で学生が発表するのは無理」という前提で以下のように授業運営をしていました。

前期：学生は20名を超えていたので授業はプリントの問題を答えさせる形式でやや受動的でした。学生全員の理解を確認するためにプリントを提出させたりもしました。前期を受講した学生と話す機会がありましたが、かなり負担を感じていたそうです。事実後期に履修者が10人ほど減りました（多少入れ替わりはありましたが）。

後期：学生は13名だったので discussion points、を用意させて、当ててその内容を膨らませた質問をさらにほかの学生に投げかけるなどして、全員が「作品について英語で何か話す」状況を作っていました。学生の負担感は少ない割には緊張感も高く、また、学生の理解程度に瞬時に対応することもできました。Discussion points や感想（日本語でもOK）を時々提出させていましたが、負担は前期よりもは

るかにすくなかったはずで。

後期の形式が自分としては理想なのですが、20名を超える場合は無理です。また、学生に授業内で英語で discussion させるようなことは、以前その形式でやってみて「学生は専門領域を英語で議論するレベルの英語力がない」(キャリアイングリッシュの学生などは別です)ことを痛感してからやめています。今後の課題としては、20名を超える英語で行なう演習でいかに学生に負担感なく参加させるかということでしょう。未だにその方法を見つけていません。

授業の助けとなる参考文献や具体的な資料をより多くの機会を利用して伝えていきたいと思います。積極的なディスカッションが生まれるようなテーマの提示を心がけたいと考えています。

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年5月27日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等
学科・専攻主任、所長、委員長等
検討会実施日
出席者数

人文学科歴史文化専攻
樋脇博敏
2019年3月19日
7名（内、非常勤講師 0名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

- ・「先生用のマイクの電池が切れがちだったので、改善すべき」というご指摘がありました。これについては、担当部署に改善をお願いします。
- ・「黒板をもう少しわかりやすく書いて欲しい」というご指摘がありました。これについては、板書の見やすさをもう少し意識するよう授業担当者に注意喚起します。
- ・講義内容がドイツ史に偏りすぎだという意見がありましたが、そもそも西洋近現代史はドイツ史を軸に語らざるをえない部分もあるので、今後は講義内でこの事情を理解してもらうために一言、二言はフォローしようと思います。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

17年度前期分の報告書では、下記3点を示しました。

- (1) 参考文献の紹介・指示は、ひきつづき丁寧な実施に取り組みます。シラバスへの掲載だけで済ませず、授業中に学生たちへ直接案内し、しかも口頭で済ますことなく、最低でも板書し、可能な限りプリントを用意して配布します。
- (2) 講義科目において、質問時間の確保を図り、また、積極的に受講者に質問を促します。当座での発言の引き出しが進まない場合には、質問用紙の配布・回収といった手立ても考えます。
- (3) 演習では、報告者以外にも何らかのコメント書面の準備（さらにはクラスへの配布）を課すことも促進します。

上記3点に関して、18年度後期における改善状況および改善の方策は以下の通りです。

- (1) について。シラバスに参考文献の書誌データを具体的に記載する事例は増えてきています。「適宜指示する」等の記載の場合には、授業時に参考文献の書誌データを明記した書面を配付するよう授業担当者に注意喚起します。
- (2) について。シラバスに「学生へのフィードバック」を明記する欄ができたので、授業担当者はより一層、質問時間の確保あるいは質問用紙の配付・回収等を通じたフィードバックの重要性を意識するようになりました。学生へのフィードバックの実施状況、教育効果については今後も点検・評価を継続します。
- (3) について。コメント書面とは別に、報告担当者に前の週の授業でレジュメを配布させ、報告者以外にも目を通して予習して来させた上で、授業での報告への質疑・コメントを促す。あるいは、報告担当とは別に司会やコメント担当の班を編成して授業参加を促す、といった取り組みもおこなわれています。授業方法の工夫・改善については引き続き検討を重ねていきます。

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年3月23日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等
学科・専攻主任、所長、委員長等
検討会実施日
出席者数

国際社会学科国際関係専攻
轟 莉莉
2019年3月14日～3月24日
17名（内、非常勤講師 6名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

学生から「板書をもっと分かりやすい字で書いてください」という意見があったので、板書の書き方は改善すべきであると思います。

多くの授業においてコメントシートによるフィードバックを実施しています。前週の学生からの講義内容に関する質問に対し、教員が毎週回答する仕組みにしている授業は、概して学生から好評のようです。教員の大まかな感觸として、1年次の授業では3分の1ほど、3-4年次の授業ではほぼ全員が自発的に質問や要望を書いてくれています。

具体的な取り組みとしては、授業内で学生に小論文を課し、その回答状況を分析し、「良い回答」と「弱点のある回答」を分類し、それぞれの回答例を踏まえながら小論文の作成法を具体的に説明する教員もいます。また、通年科目の中には、後期のはじめに、前期の筆記試験の回答状況に関する分析結果を学生に示し、回答例を挙げながら、どのような回答が「良い回答」なのかを説明する授業もあります。ただし、これらの試みは、教学内容の多い講義科目等では導入が難しいため、今後の方向性としては、科目の特性に合わせて導入を拡大していくことが望ましいと考えています。

なお、フィードバックが欲しい場合は学生からの自己申告や課題提出を求めている授業では、学生からの要望がまったく出ないというケースもあります。教員側にも工夫の余地があるかもしれませんが、学生のより積極的な授業参加にも期待します。学生のなかには、小テストの点数が悪かったことへの謝罪等をコメントシートに書く者もいますが、教員が期待しているのは学生を委縮させることなく、授業に主体的に参加してもらうことです。コメントシートの意義について学生に対し折に触れて説明する必要があるかもしれません。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

コメントシートに寄せられた質問への回答や、小テスト等課題の添削や解説によるフィードバックを行っている授業は、概して学生に好評と言えます。そのため、それらの取り組みは今後も継続し、未導入の授業でも可能な範囲で導入を検討するよう、教員間で情報を共有したいと思います。

地図・写真・映像等、文字以外の資料を配布・提示する授業は、概して学生から好評のようです。ウェブラスでスライドショーを公開している授業もあります。教員側は授業が幼稚になりすぎないように、分かりやすさとのバランスに常に悩みながら授業資料を作成しています。また、いまやインターネット上で様々な情報が手に入る時代なので、学生自身が授業に関連する資料を自発的に探す努力も重要です。そのため、教員側には今後、演習等の授業で「情報の集め方」をいっそう丁寧に指導することが求められると考えます。

今回のアンケートでとりわけ気になったのは、「教室外学習1時間未満」の回答が少なからずあったことです。難しめの課題文献を指定した授業においてすら、その傾向が見られました。もちろん、学生の個々の授業に対する重点の置き方は様々なので、学生に対し一律に態度改善を求める必要はないでしょう。しかし、「1時間未満」と回答した学生は、当該科目を重要視していなかったと考えられるため、教

員としては学生の学習に臨む姿勢に資するよう、授業の趣旨や課題文献選択の狙いをこれまで以上に明瞭に伝える努力をしたいと思います。

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年5月28日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等

国際社会学科経済学専攻

学科・専攻主任、所長、委員長等

二村 真理子

検討会実施日

2019年3月15日

出席者数

5名（内、非常勤講師 0名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

・字が小さくて読みづらい。

今後は読みやすい字を書くように心がけます。

また、字が読めるかどうかの確認も行うようにします。

ただし、視力に自信がない方は、前の方の席への移動も併せてお願いします。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

・従来通り、授業中に理解度の確認を適宜行います。さらに受講者の理解度への配慮の方法については、それぞれの授業において示すこととします。

・授業開始後に教員がスケジュールを変更する場合があります。その際には、変更の説明、並びにシラバスの訂正を行います。

・必要に応じて追加資料を配布し、授業内容の理解が進むように工夫します。また、資料が新聞記事などの場合、その記事を選択した理由を説明します。

・近年、自由記述欄への記載が少ないようです。皆さんの改善ニーズを知るためにも、コメントを書いていただけるよう促したいと思います。

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年5月28日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等
学科・専攻主任、所長、委員長等
検討会実施日
出席者数

国際社会学科社会学専攻
金野 美奈子
2019年4月17日
4名（内、非常勤講師 0名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

・（社会調査実習）社会調査実習費の用途についてお尋ねがありました。社会調査実習費は実習用PC購入や統計分析ソフトのライセンス購入など、社会調査実習の授業環境維持・改善のために活用されています。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

【講義科目】

・引き続き「理解しやすい授業づくりをめざす」という目標を確認し、学生の関心を喚起し理解を促すとともに、学生が自ら学びを深めるきっかけとなる取り組みを共有しました（豊富な具体例の提示、聞き取りやすい話し方、理解を助ける教材の工夫（配布資料、スライド、画像、映像の提示）、質疑応答や対話の時間を積極的に設けるなどの双方向型授業、さらに理解を深めたい人向けのヒントや参考文献の提示など）。

・受講生の理解度の幅を考慮した、適切なレベル設定について引き続き留意します。合わせて、授業のレベルよりさらに上を目指すためのヒントの提示、基本事項の理解不足を埋めるための助言を適宜行います。

【演習科目】

・全員にいっそうの参加意識をもって臨んでもらうための取り組みを引き続き行っていきます（学生による自主的なクラス運営、小グループでのグループワークやディスカッションなど人数の比較的多い演習でも全員が参加しやすい工夫など）。

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年4月5日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等
学科・専攻主任、所長、委員長等
検討会実施日
出席者数

国際社会学科コミュニティ構想専攻
伊奈 正人
2019年3月20日
8名（内、非常勤講師 3名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

シラバスの活用については十分に検討して、授業内容が変わった場合に、シラバスの修正の徹底を行うことを周知しました。

授業についての意見は構成員全員で共有しました。

特に特徴的な意見として、一方で、実践から入ってワークショップをするのはよいという意見がありました。この点については、他方で、まちづくりやコミュニティについて学ぶために入学したのに、そのことについて概観する座学がないことが批判されました。

ワークショップ方式の「まずやってみる」授業は、応分の時間外学習が必要であることはご理解いただきたいと思いますが、教員側にも、この点に配慮した授業を行うこと、総論・原論的な座学を役割分担（コミュニティ心理学・心理学関連、観光学関連などごと）にすることを周知しました。ガイダンスや授業でもこの点くり返し説明します。

すでに観光学では、この点に配慮して、体系的に段階的に学べるような授業タイトルをつけて、さらにナンバリングなどをほどこすなどの工夫をしています。学際的な勉学は焦点がわかりにくいですが、このような工夫を重ねることにより、授業の体系性がみえやすくなると思います。

シラバスに書いた授業ノートの作成については、教員間での理解の共有が不十分でした。そのため、この点について、授業シラバスとの関連での批判をいただきました。

ノートについて説明いたします。具体的に言えば、キリスト教学の礼拝ノートと同様、その日のクラス内の学習、教室外学習で行った内容をノートに書き留める努力をしてもらうことです。教室外の読書、フィールドワーク、自主ゼミの記録、クワコ塾の記録などをノートに書き留めておくことです。これによって教室外学習にも効果が期待できると考えております。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

シラバスの活用を徹底します。（随時の確認など）

ウェブクラスの活用を呼びかけます。これと、従来から活用してきた教材の同時編集、ワークショップ成果の共有ツールの活用を併用するとより効果的な授業ができると思います。

それと同時に、機器に頼るのではなく、簡便な道具立てによるアクティブラーニングの実施ということの意味を理解いただくため、授業でくり返し説明します。

具体的な説明としては、教材文書の授業内での同時編集といった知恵を共有すること、アプリを利用して、随時の発言や授業コメントを授業中に流すことなどを予定しています。

教室外学習の充実への具体的な対処法として、授業外学習ノート、フィールドノートなどを作成してもらうことにします。すでにドロップボックスによってこうした成果を共有している場合は、これをノートとして見なします（手書きのノートである必要はありません）。

授業名だけではなかなか科目の体系性がみえにくいので、各教員に体系的な授業内容名を工夫して、示していただき、さらに段階性を示すなどして、授業の体系性がみえやすくする工夫をいたします。

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年4月4日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等
学科・専攻主任、所長、委員長等
検討会実施日
出席者数

心理・コミュニケーション学科心理学専攻
森田 慎一郎
2019年4月3日
9名（内、非常勤講師 0名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

・「基礎心理学概論」では、「授業が面白くて楽しい」「コメントを気軽に書くことができてよい」などの自由記述がありました。授業内容を工夫したり、様々な視点から書かれるコメントに対して、その内容に制約を課すことなく、フィードバックを行ったりしていることが、これらの評価につながっていると思われるため、今後も継続していく予定です。一方、「心理学基礎講義B」では、「コメントペーパーで書かれた内容に、もっとフィードバックをしてほしい」という自由記述がありました。以前の授業評価において「フィードバックに時間がかかり過ぎている」という自由記述があったことを意識してフィードバックの時間を短めにした経緯がありましたが、今一度、フィードバックの時間配分を見直してみたいと考えます。

・「社会心理学概論」では、授業を進める速さについて「ちょうどよい」「遅すぎる」という異なる内容の自由記述がありました。意見が分かれたのは、授業で使用するプリントの空欄箇所を学生が埋める際に一定の時間を設けることが一因と思われます。空欄を埋める作業時間の個人差にどのように対応していくかということは難しい問題ではありますが、双方の意見があるということ意識しながら、授業を進めていきたいと考えます。なお、同様に、空欄箇所がある資料を配布している「心理的アセスメント」でも「空欄を埋められなかった。スライドの速度が速すぎた。」という自由記述がありました。積極的に授業に参加し、その場で理解をしてもらいながら進めるための資料の工夫であり、学生が書き留めているのを一応チェックして次のスライドに移るようにしていましたが、今後、さらに、細かく留意していきたいと思えます。

・「心理学統計法1」では、「毎回提出している課題を返してほしかった」という自由記述がありました。課題については、学生が提出前にコピーをとり、授業開始時に講師に原本を提出した後に、学生は、そのコピーを手元に置きながら、講師からOHPと口頭で説明される正解をチェックするという形式をとっています。これは、講師が間違いやすい点を強調しながら説明できるというメリットや、学生が提出したばかりの答案の正否をその場でチェックできるというメリットがあるという考えのもとで行っているものであるため、その点をご理解いただければ幸いです。今後は、予めそのようなメリットについても説明するようしていきたいと思えます。また、「復習用に、(未記入の)課題プリントを再度もらいたいとお願いしたが叶わなかったため、学習の機会が妨げられた」という主旨の自由記述もありました。復習しようという姿勢はたいへん素晴らしいものであると思えます。また学習の機会が妨げられたと感じさせてしまったことは申し訳なく思えます。これについては、授業開始時に、未記入のプリントを保管しておくことで復習のときに便利であることを前もって説明し、その必要を感じた学生は予め対策を打てるよう、工夫していきたいと考えます。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

・前回、教室外学習への主体的な取り組みとして、例えば、事前に疑問点を提出するという方式を採用することが、次回の授業で扱う該当の章を丁寧に読むことにつながる、という方法が挙げられました。今回は、例えば演習の授業で、レポーターが担当箇所を発表した後に、そのレポートに対するコ

メント（疑問点を含む）を一人だけで考えるのではなく、グループで検討することによって、より建設的なコメントとなり、そのコメントを受けたレポーターが、授業終了後の教室外学習の時間を使って調べ直しをして回答を作成し、メーリングリストで他の学生と共有する、といった一連の試みが、時間外学習への主体的な取り組みに良い影響を与えていることが確認できました。今後も、さらに授業改善を進めていきたいと考えています。

・2018年度より新課程がスタートしましたが、それぞれの授業内容が有機的かつ補完的に学生のなかに蓄積していくことができるように、必修科目の授業の配布資料は専攻内ですべて共有しています。引き続き、このような工夫を継続していく予定です。

「2018 年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019 年 9 月 10 日

学科・専攻、研究所、科目運営委員等

心理・コミュニケーション学科コミュニケーション専攻

学科・専攻主任、所長、委員長等

小田 浩一

検討会実施日

2019 年 3 月 28 日

出席者数

17 名（内、非常勤講師 0 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

- ・WebClass の資料を授業中にも閲覧できるようにしてほしい。← 資料は予習用なので、それはできません。ガイダンスでも説明しているので、予習してください。
- ・大福帳を配るなら授業の最後にしてほしい。← 授業の最初に学生に戻すことに意味があるので、授業に初めから参加して受け取ってください（他の学生には好評です）。
- ・グループワークと講義を交代でして欲しかった。← グループワークと講義のバランスや順序を工夫します。
- ・レポート 2 回が近かったので、もう少し時間をあけて 2 回にしてもらえると嬉しいです。← 確かに近かったので、十分な時間をとるようにします。
- ・課題が多すぎる。← 120 分に見合う課題を出したつもりですが、実際にかかる時間を反映して課題の量を調整します。
- ・1 限の授業という出席するのに努力が必要な授業なので、出席点を設けてほしい。← 大学全体のルールとして出席は成績評価に直接反映されません。しかし出席する時間が長い人の方がより深い理解を得られ、結果として成績はよくなるはずです。出席の努力は報われています。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

- ・専攻の教員がエクセレントファカルティを受賞した方法を参考にします。具体的には、(1) 25 名程度の演習で発表回数を増やすために 5-6 名程度のグループにし、グループごとに発表者 1 名、議論の司会 1 名、議論後の総合報告係 1 名の役割をつくって参加の機会を増やす。発表だけでなく、議論の重要性の理解を促しました。(2) 各回ごとに、学生は自己評価と相互評価をして、一部をポートフォリオとしてまとめて学期末に提出させて学修成果を可視化・自己調整させました。自己評価は、内容と形式の両面で評価させ、次回の到達目標も設定させました。ピアからの評価の中では激励・改善コメントを書いてもらいました。(3) 読んでまとめる文献以外にも映像視聴の予習課題を課し、授業後にはミニレポートを出させました。
- ・振り返りの時間を授業内に設けています。その日何を学んだかをグループで 20 分程度話合ってもらい、簡単に発表してもらおうこともあります。
- ・playful な学びを入れるために、概論の授業で Youtube を流しています。学生からリクエストされた曲など。学生の気分を上げ、関心をもたせるために。ただ、授業の予習の邪魔になるという意見もありました。
- ・1 限に授業時間の最初から来ている学生のために、授業の中身に関係している最新（授業時の 1-2 週間のうちに公開されたような）のビデオやデモ教材をいくつか見せて解説しています。

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年3月29日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等
学科・専攻主任、所長、委員長等
検討会実施日
出席者数

人間科学科言語科学専攻
松尾 慎
2019年3月27日
8名（内、非常勤講師 0名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

・日本語教育研究概論 に対するコメント

「教室内の学びだけでなく今後につながる学びのできる授業」、「自己の成長を感じました」、「メールを使って先生から連絡がたくさん来て、とても距離の近い授業だと思った」などのコメントをいただきました。今後も、受講学生が少しでも自己の成長を実感できるよう、教室内での学びの充実はもちろんのこと、学生と社会をつなぐような実践を行うとともに、様々な学びの機会を授業やメーリングリストなどで学生に伝えていきたいと思えます。

・翻訳研究 に対するコメント

授業資料がすぐにWeb Class にアップされる点が非常によいとのコメントがありました。今後も、そのようにしていきたいと思っています。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

・演習の授業でレポートの書き方、特に構成の立て方、文中での引用の仕方、文献リストの作り方（書誌情報の記載方法）を詳しく取り上げたことが役立つという意見を複数いただきました。中間課題にも間に合うよう、なるべく学期の早い時期から取り上げていきたいと思えます。

・人数の多い講義科目では、毎回の質問やコメントを次回の授業の最初に紹介し、質問に答えたりコメントへのフィードバックを行ったりすることで前回の復習をするとともに、受講生間でもお互いの意見を共有し、それに刺激された意見を提供してもらえるようにしています。

・授業毎に受講学生に振り返りを書いてもらい、その中から何名かの学生の振り返りを紹介しています。コメントを加えることもありますし、振り返りの中に質問があれば答えるようにしています。

・比較的大人数の授業であっても授業中にペアワークやグループワークを取り入れ、その結果を全体共有してもらうようにしています。少しでも学生が主体的に授業に参加できるよう努めています。

・授業内容に関連している学内外で開かれるイベントや講演、研究会などを紹介しています。例えば、日本語教員養成課程の学生には日本語活動（難民留学生、日本人学生、大学院生などが参加）を紹介し、入れ替わりで多くの受講学生が参加しています。また、明治大学で開催されたヒューマンライブラリーにも数名の学生が参加し、多くの学びと刺激を受けたとの報告を受けています。その他、UNHCRの難民映画祭も毎年、受講学生に案内していますが、映画祭で映画を見ることで授業での学びを深めている学生がいます。今後とも、こうしたイベントや講演、研究会などを紹介していきたいと考えています。

・ゼミの授業では、ゼミ日誌を書いてもらっていますが、その中から次回の授業でディスカッションができるようなテーマを探し、授業の中で日誌に書かれていたことが扱われるように心がけています。

・3年次演習において毎回授業での振り返りやコメントを書いてもらっています。それに対し、教員から一人ひとりにコメントを書いて返します。学期を通して継続するので学びの記録が一目で見ることができます。

- ・授業で扱う内容が難しい場合には、グループで相談ができるようにグループワークの準備をしています（グループのカードを作る、課題をまとめる話合いに使う画用紙を用意する、など）。
- ・授業内では、道具を使って体験・体感できる工夫をしています。授業外では、Web教材も活用して練習の機会をもうけていますが、各学生がどれほどアクセスができていますか管理できていません。
- ・ゼミの授業では、提出されたレポートのコメントから、学生全員で共有できるような注意点をまとめて伝えています。

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年4月9日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等
 学科・専攻主任、所長、委員長等責任者
 検討会実施日

数理科学科数学専攻
 大阿久 俊則
 2019年4月1日

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）学生・WEB開示

(1) 1年次学科必修科目では、授業中の私語が気になったという意見が複数ありました。担当者はそのつど注意したつもりですが、今後はさらに厳しく注意するようにします。学生の皆さんも私語など授業の妨げになるような行為は慎んでください。

(2) 板書については、きれいで字も大きく見やすかったという意見もある一方で、字が小さかったり薄かったりして見にくかったという意見や、板書ミスが多いという指摘もありました。たとえば複雑な数式や行列の成分の添字などはどうしてもある程度小さくなってしまいます。読みにくい場合は遠慮せずにその場で教員に質問してください。また、板書ミスについては今後注意しますが、不明なことはなんでも積極的に質問するようにしてください。それによって授業が活性化すると思います。

(3) 授業によっては板書が早過ぎるという意見もありました。早過ぎる場合は教員が前の部分を消す前に時間を取るよう要望してください。またプリントなどの教材を配布して板書をすべて書き写す必要はないようにしている授業もあります。

(4) 授業内容については、多くの授業で、わかりやすかったという意見と難しかったという意見の両方があります。授業内容を理解するためには受け身ではなく積極的に理解しようとする姿勢が必要です。わからないことがあれば、授業中でもそれ以外でも積極的に質問してください。特に数学では前回の授業内容を復習することが重要です。前回の復習をしないと次の授業の内容が理解できないのは当然です。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB開示

(1) 授業中の私語については教員がそのつど注意するとともに、私語は迷惑行為であるという自覚を学生の皆さんが持つように新学期のガイダンスで指導しています。

(2) 教員がレポート課題や小テストなどを頻繁に課すようにしています。それによって学生の皆さんが授業の復習をする習慣を身につけることができると考えています。アンケートによると、頻繁にレポートや小テストを課すことは学生の皆さんからも概ね好評のようです。

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年3月29日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等
学科・専攻主任、所長、委員長等
検討会実施日
出席者数

数理科学科情報理学専攻
加藤 由花
2019年3月18日
7名(内、非常勤講師 0名)

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

- 9302 教室は、板書に向いていないと思います。(アルゴリズムとデータ構造) 「アルゴリズムとデータ構造」についての数理的な内容は板書で講義を行った方が受講者の皆さんの理解度がよいと考えて板書で行っています。一方、毎回のようにプログラミングも授業では扱うため、情報処理教室か情報実習室を使う必要があります。スライドと板書の量のバランスの問題だと思いますので、来年度以降はより効果的に両者を利用できるよう、一般論をスライドで提示して具体例は板書で行うなど、配分の改善を行います。
- 演習を行ったので理解が深まりました。(マルチメディア概論) フォトレタッチソフトの編集作業を Python で処理することで、どのような処理が行われているかを試し、目で確かめることができたのではないかと思います。実際にプログラムを書くことによって、ソフトの機能や画像処理について興味を持って授業でできなかったことも試すと良いでしょう。
- 単位をください。(プログラミング) プログラミングは実際に自分で書けないと意味がないと思っています。プログラムの流れを理解できること、自分でプログラムが書け、エラーの処理ができること、を試験で判断して単位を出しています。そのため、日ごろの努力が大事です。毎週すべての課題を終わらせ、わからないことはそのままにしておかずに質問しましょう。
- 課題をほぼ毎回出してもらえたのがとても良かったです。(物理化学 B) 自然科学の方程式は、導出するだけでなく、単位を含めた具体的な数値を代入し計算することによって、色々な気づきがある場合が多いです。また、授業で使用した数学(簡単な微積分と実対称行列の固有値問題)も、確認のために課題にしたところ、忘れていたのでよい復習になったという(平常の)コメントシートがありました。これらは、下記2のように問題を吟味しながら、今後も続けていきたいと考えています。
- ミニレポートの問題も講義ノートにのってれば、より復習がしやすいと思いました。(量子力学) ミニレポートの問題は、授業の進行を考慮し、補足したほうが良い点を問題とする面もあるので、講義ノートに載せ難い所がありますが、基本的に大切な演習問題については講義ノートに例題の形で載せることも検討したいと思います。
- 実験のときうまくいかなかった際に、授業外でやるとお昼をとれずに3限を受けなくてはいけなくなるので、そこを改善してほしいです。(量子力学) すみません。長引く可能性のある実験テーマの場合には、開始を早める工夫をしたいと思います。
- 古典力学の観点からの熱力学と量子力学からの観点からの熱力学の両方を学ぶことができ、大変勉強になり、興味深い講義でした。また、この講義が日々の生活とも密着していることも大変意義深いものでした。ありがとうございました。(現代物理学) 量子力学を用いたエントロピーの計算などは、少し面倒な部分もありますが、一つの事を複数の観点から検討するのは理解を深めるために重要と考えます。
- 顕微鏡の使い方などを詳しく知ったうえで実験をしたかったです。(生物学概論) 時間が限られているので難しいのですが、初回の説明だけでなく、その都度、要点を説明するようにします。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

- 各授業の最初に前々回に課したレポートの解説を丁寧に行うようにしています。ある程度時間をおいて復習することで学習内容の定着を図っています。
- 授業で配布したプリントや演習問題の解説を Webclass に載せ、講義以外でも見られるようにしました。Webclass で課題の提出を行うと共に、質問欄を設け、いつでも質問できるようにしました。
- 前回の報告書で書いたように、過重でない課題を多く出すようにしたところ、上記のような意見が得られました。ただし、アンケート設問2の「この授業のために、教室外学習にどの程度時間をかけましたか」に対し、ちょうど半数が週1時間未満と回答していました。課題が1時間もかからないものだった可能性もありますが、諦めて他人のものを写した可能性もあります。両者に対応するため、難度に段階を付けて数を増やし、途中までしか出来なくてもある程度の達成感が得られるように工夫しようと考えています。さらに、授業時間内のミニテストを取り入れることも検討しています。
- 座学だけでなく、講義内容の理解を深めるべく物理学実験を行っています。今年度は実験テーマを少し増やし充実を図りましたが、好評の様でした。
- 実験・観察はいつも好評です。カリキュラムに実験を行う科目がないので時間的にも限られたことしかできませんが、実験室を活用して、できるだけ実験・観察の機会をつくりたいと思います。
- コメントペーパーの質問を次回に回答することは、前年度に引き続き、理解に役立つと好評でした。
- 情報実習室のコンピュータ環境を更新することによって情報教育の充実を図ります。
- 資料の配布、出席確認、課題の提出等で WebClass を活用しました。講義や課題のスケジュールをいつでも確認でき、有効活用されていたようでした。

「2018年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年6月6日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等
学科・専攻主任、所長、委員長等責任者
検討会実施日
出席者数

女性学研究所
唐澤 真弓
2019年6月6日
3名(内、非常勤講師 0名)

1. 学生へのフィードバック(学生の要望に対する具体的な回答) [学生・WEB 開示](#)

* 女性学・ジェンダー関係科目の性質上、現状では個別アンケート結果の持ち寄りができないため、割愛させていただきます。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

女性学・ジェンダー関係科目全体として、全学集計と比較した際におおむね同じような特徴がありましたが、いくつかの設問において以下の改善を要する結果が見られました。ひとつは、設問9「教員は受講者の理解の程度を、点検・配慮していませんか」について、全体では「非常にそう思う」は53.2%ですが、女性学・ジェンダー関係科目では49.4%と3.8ポイント程度低い結果となりました。同様に設問10「教員は授業運営(質問の機会等)を適切かつ公正に行っていましたか」も全体では「非常にそう思う」が57.6%ですが、女性学・ジェンダー関係科目では53.8%と3.8ポイント程度低い結果となりました。しかし設問12「授業を受講して、この授業が対象とする分野への問題意識や関心が深まりましたか」(問題意識の深まり)については、全体では「非常にそう思う」が54.9%ですが、女性学・ジェンダー関係科目では58.1%と3.2ポイント程度高いという結果でした。この結果から、授業を通じて、6割近くの学生がジェンダー関連分野に対して関心を高めていることを見て取ることができました。授業科目毎の分析ではないので、今後詳細な分析を行い、問題点、改善点を明らかにしていきます。全体の改善策としましては、授業を担当の教員には、本報告を通じて受講者の理解度の点検や配慮、質問の機会などについて今一度確認するようお願いしたいと思います。受講生の理解度の点検・配慮をより高めるよう工夫し、女性学・ジェンダー分野の問題がさらなる学習を促すようにより一層努めながら、女性学・ジェンダー関係科目のさらなる充実を図りたいと思います。

また前回の報告では、設問2(教室外学習の時間)で「週1時間未満」、「全くしていない」という回答が74.7%となっていました。今回は69.4%と改善がみられました。2018年の後期には女性研の活動や蔵書などを、授業やWoman's Caféなどの女性研の訪問などを通して周知しましたが、今後も文献の紹介などをしていくことを進めていきたいと思えます。